■国際栄養関係者アドボカシー

■2019年2月13日〜14日（関係省庁、衆議院第一議員会館、日本リザルツ東京事務所)

■参加者

SUNビジネスネットワーク、SUN市民組織ネットワーク、ビル&メリンダ・ゲイツ財団、リザルツ教育基金、その他国連機関・非政府組織等

■内容

参加者は、特別な機会を得た。総理大臣官邸・財務省・厚生労働省・外務省を直接訪れ、栄養改善に関する提言を真っ向から行った。この議事録にはアドボカシー参加者の他に国会議員・関係省庁が参加した国際母子栄養改善議員連盟(以下、議連)の第7回会合の内容もそのまま記載されている。リザルツ教育基金のナンディーニ・ピライは「2015年から16年にかけて、世界的な資金拠出は9%も減少し、日本の拠出も大幅に減少している。東京で開かれる栄養サミットを機に、こういった傾向を逆転させる資金コミットメントを期待する」と述べた。逢沢一郎議連副会長は「栄養への投資が重要であることは明白だが、何にどれくらい投資すればどれくらいの成果があるのか、我々は有権者に説明する責任がある。子どもに聞かれてもわかる簡単な説明を用意して欲しい」と要求し、塩崎恭久議連顧問も「説明責任なき出資はありえない」と述べた。